

青葉山新キャンパス整備計画策定に係る
土地利用計画、施設配置計画について

．土地利用計画

1．基本的な考え方

- ・青葉山新キャンパス一帯は、条例等で保護されながら豊かな自然環境が維持され、長きにわたり「杜の都・仙台」の象徴として市民に親しまれてきた貴重な地域であることから、自然との共生や調和などに十分に配慮した計画とする。
- ・また、新キャンパス用地だけでなく、青葉山・川内地区全体の教育研究機能の関連性や自然環境の連続性などに配慮した計画とする。
- ・一方、新キャンパス用地は、すでにゴルフ場として開発された敷地であることを踏まえ、緑地として保存するエリアと建物等を整備する開発エリアを明確に区分し、保存エリアについては100年先まで今の環境を維持するエリアと位置付け、開発エリアについては、適度に集約化・高層化を図るなど密度を高めた整備を行うエリアとして計画とする。
- ・また、大規模な造成は極力抑え現状地盤を活かして計画することを基本とする。ただし、各街区内においては利用者の利便性に配慮し、極端なレベル差が生じない計画とする。

2．各部の考え方

- ・基本的には、フェアウェイの部分を開発エリアとし、それ以外の保存緑地の指定を受けている部分や樹木が密集している部分を保存エリアとして計画する。
- ・敷地中央部については、保存緑地の指定を受けている竜ノ口溪谷が差し込んでいるため、これを利用し、沢及び周辺フェアウェイを含めた範囲をユニバーシティパーク（仮称）と位置付け、本学の象徴的な広場として計画する。
- ・開発エリアについては、ユニバーシティパークをコの字型に囲む形で計画することとし、現状地盤のレベル差を踏まえ、敷地北側エリアをLower Campus、クラブハウスから南西のエリアをUpper Campusと位置付けるとともに、広範囲に平坦な敷地が必要となるスポーツフィールドについては造成土量が最も少なくなる敷地南側に計画する。
- ・Lower CampusとUpper Campusの地盤のレベル差は、12～15m程度となる見込み。
- ・サイエンスパークについては、大学との機能的な一体性とサイエンスパークの独立性等に配慮し、専用のゲートから出入りできるUpper Campus南西角に設ける計画とする。
- ・本計画では、最大で約30万㎡の建物が整備できる計画としている。
- ・地下鉄東西線青葉山駅は、青葉山地区全体の入口・玄関にもなることから、駅前の計画を行うに当たっては、新キャンパス内の駅前広場の計画とともに、駅周辺にあるグラウンド（現仮設駐車場）や応用物理実験棟敷地を含めた将来計画を検討しておく必要がある。

3 . 交通計画

- ・平成27年度に地下鉄東西線が開業する予定であるため、青葉山・川内地区の交通計画については、基本的には公共交通機関の利用を前提に計画することとし、自動車やバイクでの通勤・通学を抑制する方向とする。
- ・ただし、地下鉄開業までの間や、地下鉄の営業時間内に帰宅できない利用者も多いと考えられるため、許可制（有料・無料は今後検討）で運用する方向で計画する。
- ・なお、運輸交通専門委員会とは別に、市や有識者等を含めた広域交通計画検討委員会（仮称）を設置し、割引定期や学内バスなど、大学全体の交通計画の検討を行う。

4 . 道路計画

- ・新キャンパスの幹線として、Lower Campusを東西に繋ぐキャンパスモール、Lower CampusからUpper Campusを南北に繋ぐS字道路、Upper CampusからAthletic FieldsやAnimal Fieldsを繋ぐ道路を設けるとともに、建物廻りに、緊急車両やメンテナンス、物品搬出入用のサービス道路を設ける計画とする。
- ・キャンパスモールについては、歩行者中心の道路として計画するが、自転車、VIP車、タクシー、緊急車両、メンテナンス車両は通行できる方向で計画する。
- ・S字及びその他の道路については、ユニバーシティパーク内に設ける歩道や散策路により歩行者の安全性が確保できることもあり、歩車共存の方向で計画する。

5 . 駐車場・駐輪場計画

- ・駐車場及びバイク駐輪場は敷地外周部に設け、新キャンパス内への進入を制限する計画とする。ただし、高齢者や身障者等の利用に配慮し、建物周囲に必要な台数の駐車スペースを設ける。
- ・自転車については、建物周辺に設ける駐輪場まで進入可とする。

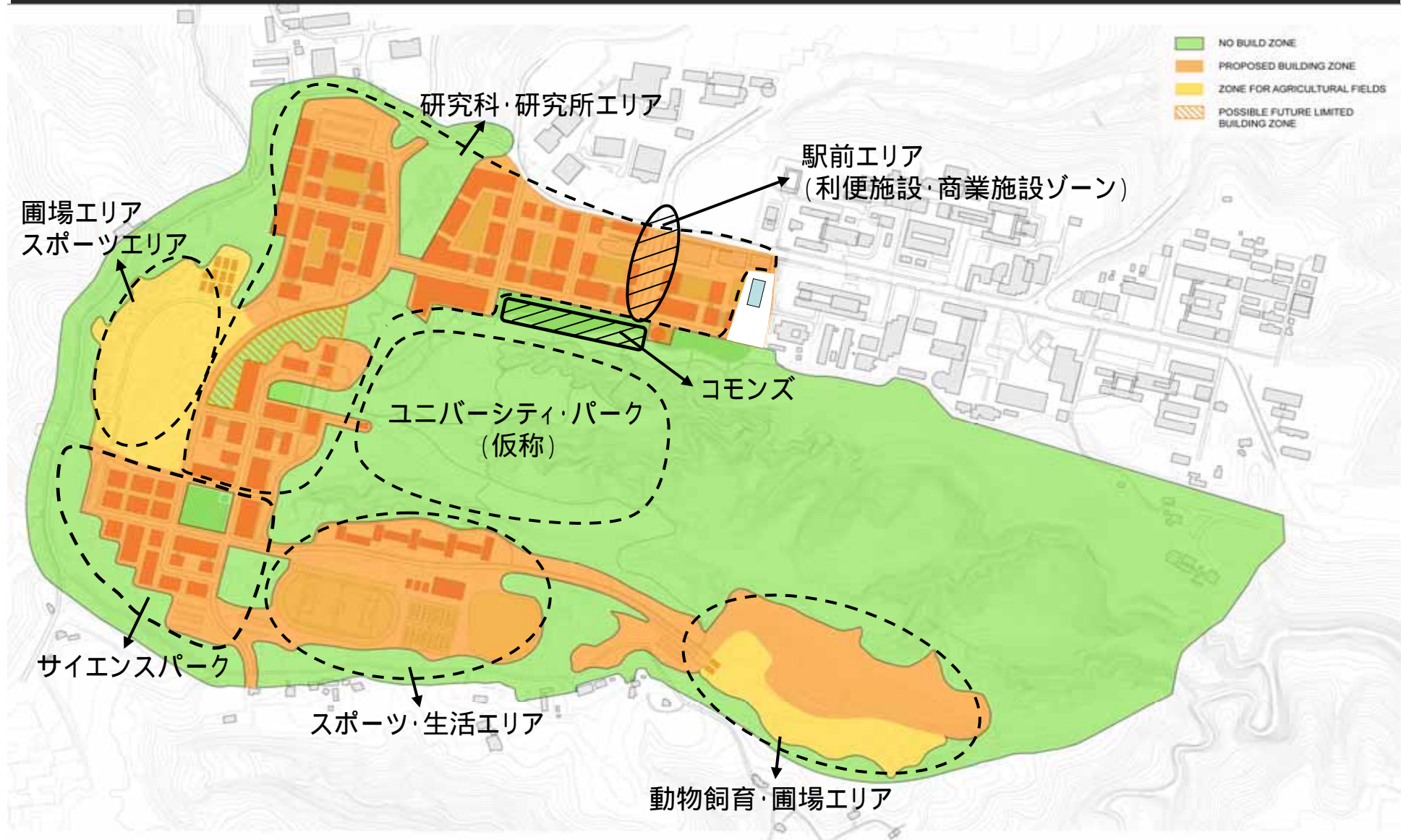
交通計画、道路計画、駐車場・駐輪場計画については、上記の考え方でフレームワークプランを策定しているが、歩車道の位置付けなどの具体的な運用方法等については、今後、運輸交通専門委員会と協議を行いながら決定していくものとする。

（参考）施設配置について

各部局の具体的な施設配置については、以下の点等を踏まえ、引き続き検討を行った上で改めて提示する。

- ・移転や整備の時期と教育研究の機能関連
- ・教育研究上及び大学生活上の利便性
- ・安全対策や防犯対策
- ・弾力的・競争的利用を図る総合研究棟の整備

Build and No-Build Zones Plan



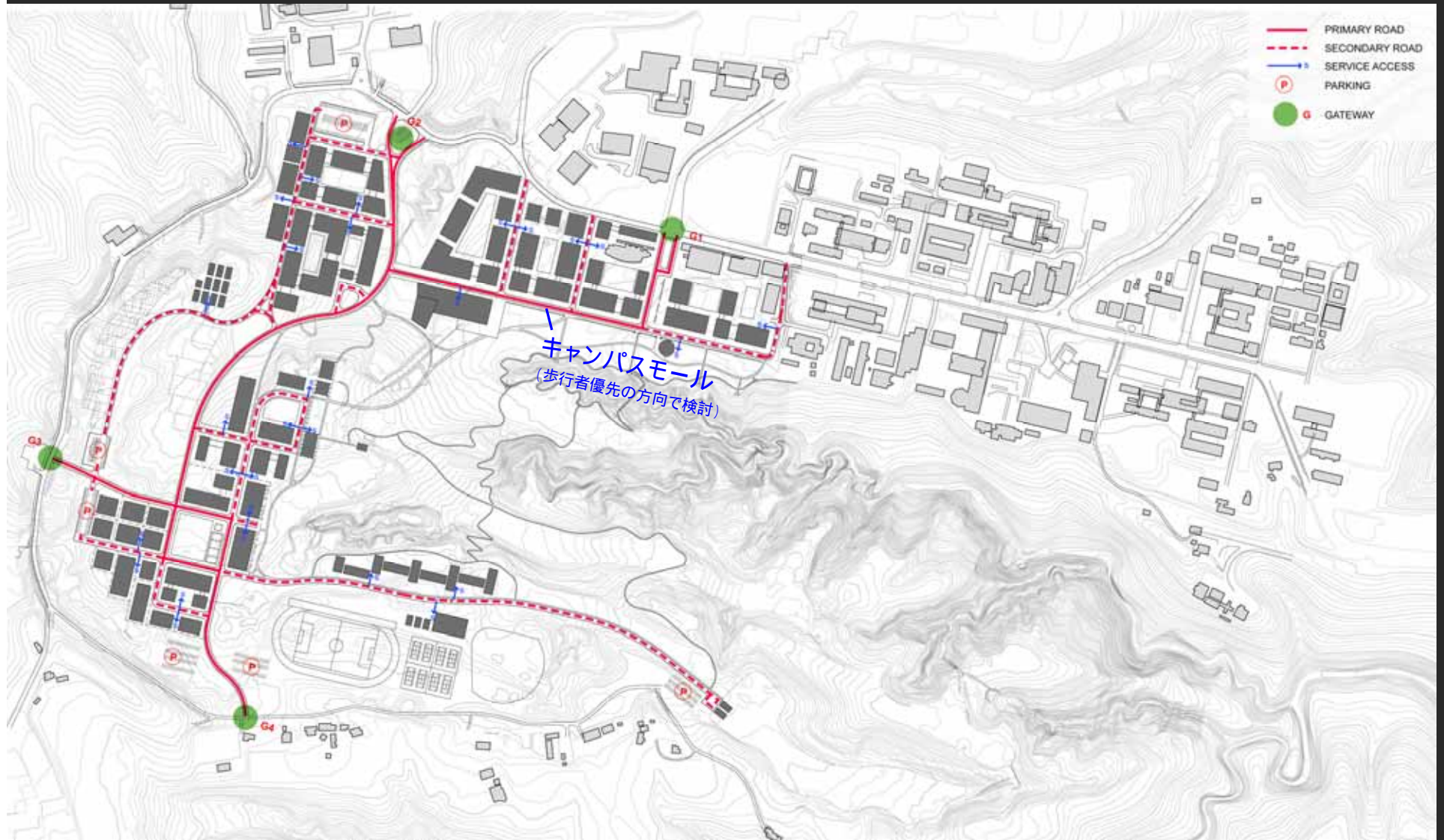
TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING



0 100 300M

S A S A K I

Vehicular Circulation Plan



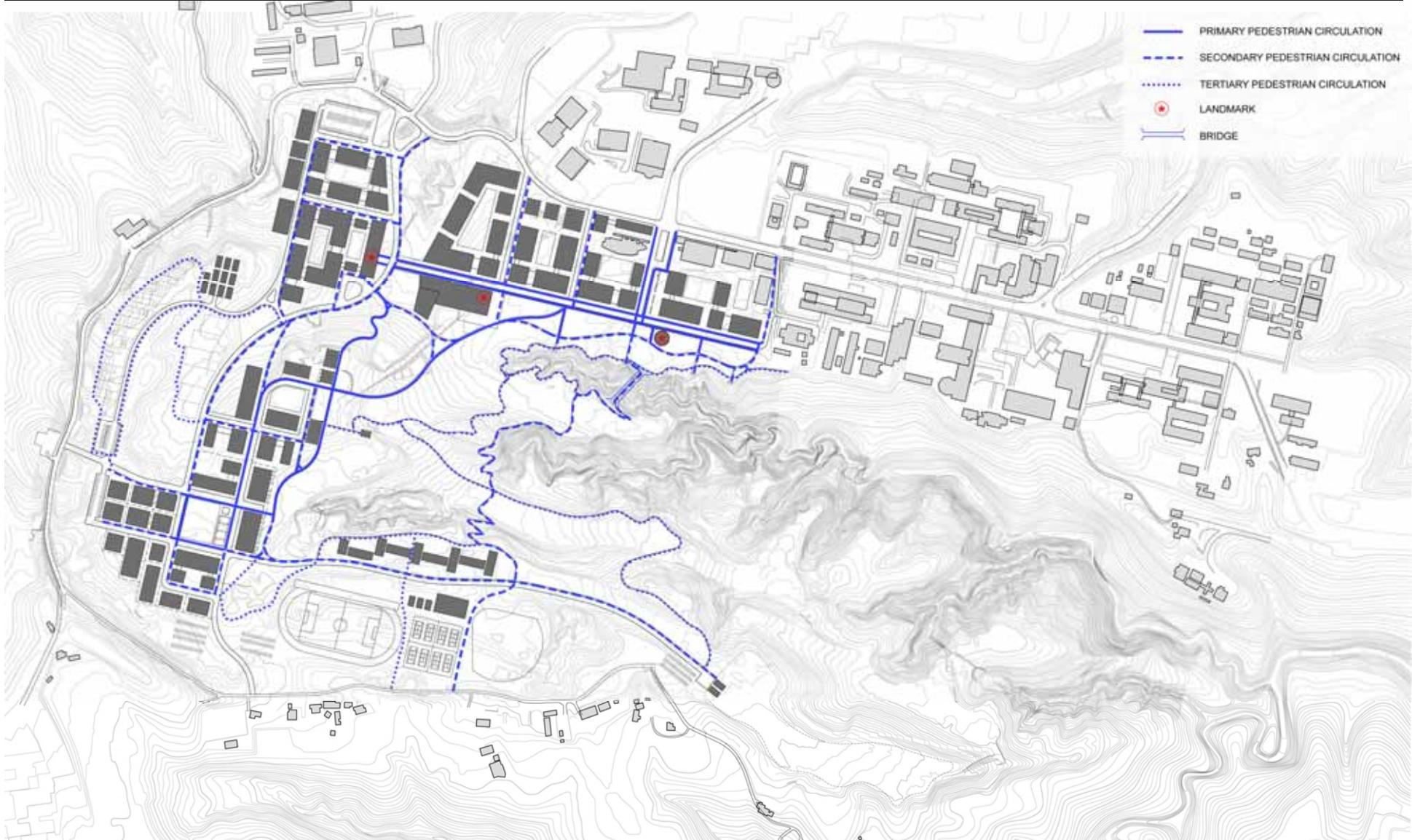
TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING



0 100 300M

S A S A K I

Pedestrian Circulation Plan



フレームワーク プロット参考図



この図に示す建物の配置、形状、棟数等は、行政手続きを進めるためにプロットしたもので、具体的な施設配置を示したものではない。今後の検討により具体化していく予定。

TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING



0 100 300M

S A S A K I

Aerial View: Campus Commons

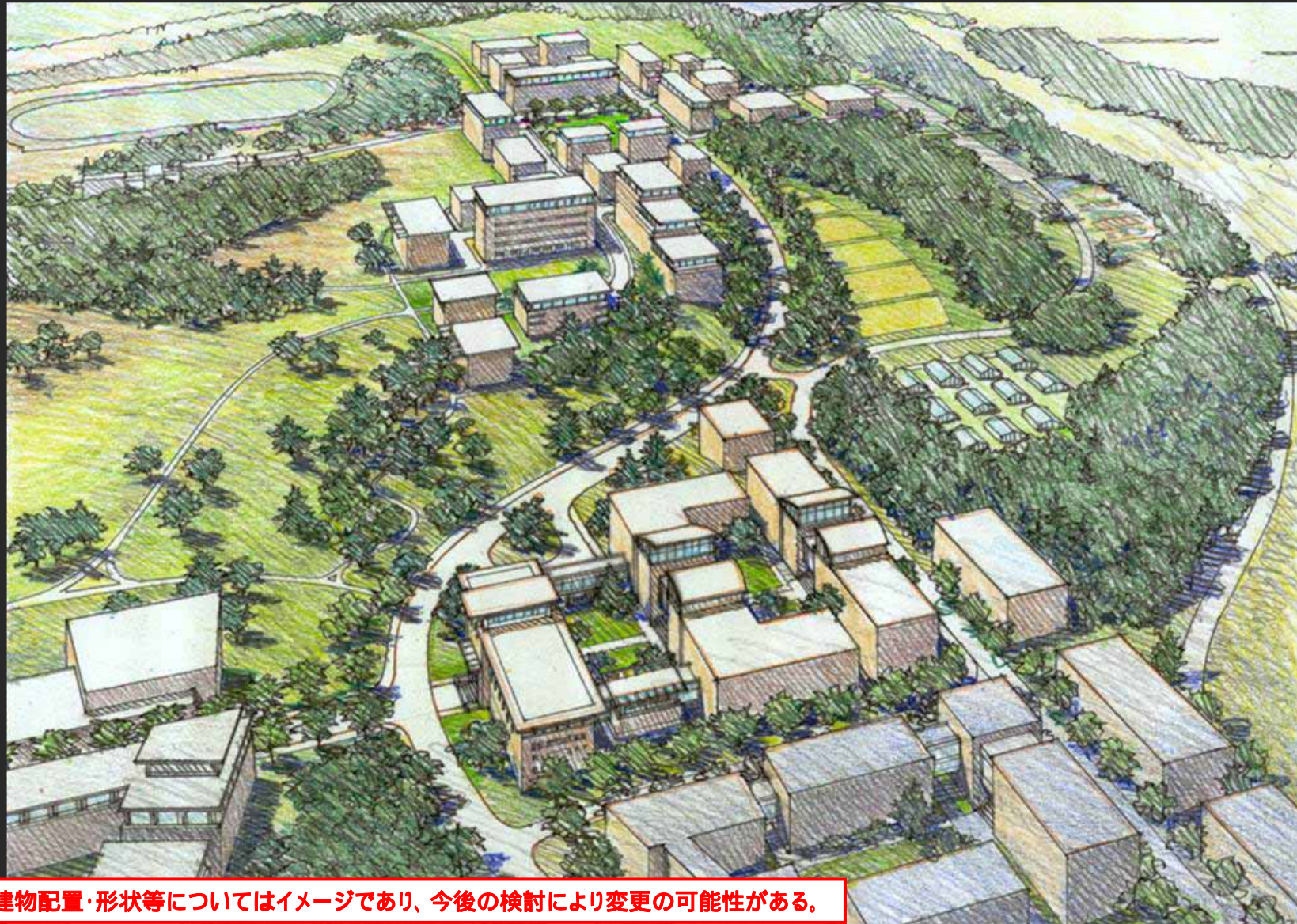


建物配置・形状等についてはイメージであり、今後の検討により変更の可能性がある。

TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING

S A S A K I

Aerial View: West Campus



建物配置・形状等についてはイメージであり、今後の検討により変更の可能性がある。

TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING

S A S A K I

Perspective View: University Station Plaza



建物配置・形状等についてはイメージであり、今後の検討により変更の可能性がある。

TOHOKU UNIVERSITY
New AOBAYAMA CAMPUS MASTER PLANNING

S A S A K I